

厚生労働大臣
田村 憲久 様

東京保険医協会 会長
拝殿清名

CRS を根絶するため風しんワクチンの臨時接種を求めます

貴職におかれましては、日頃より国政の重責を果たされていることに心より敬意を表します。

私ども東京保険医協会は、東京都の保険医約 5,270 人で構成し、患者・国民の命と健康、皆保険制度を守るために活動している団体です。

CRS (先天性風しん症候群) は 2012 年 10 月から現在までに 12 例発生しています。米国 CDC (疾病管理予防センター) の「VPD Surveillance Manual (第 5 版、2012 年)」によれば、CRS の赤ちゃんは、生後、長期(一年以上)にわたって咽頭部や尿中への風しんウイルスの排出が続くことがあると指摘されています。そのため、新生児室や NICU で周囲 (他児) への感染対策が必要になるなど、小児の医療体制そのものに大きな影響を与えます。CRS は有効な治療手段が無いことから、これ以上の感染拡大はなんとしても阻止しなくてはなりません。CRS、風しん撲滅のためには、風しんに対する免疫を持たない可能性のある国民全員がワクチンを接種することが必要です。

大阪府の富田林市では、医師会が 19 歳～49 歳の住民を対象に無料で風しんのワクチンの集団接種を始めました。また、仕事を休んで医療機関に行くほどの余裕が無い実情を汲んで、千代田区保健所は本年 4 月から風しんについて職場等での集団接種を認め、接種を促進しています。このような接種を効率的に行う手法を地域に学び、国が責任を持って風しんワクチンの接種を推進すべきです。

以前から、流行の危険性は指摘されており、さらに国立感染症研究所の週報を見れば、2011 年の夏ごろから風しん流行の兆しはあり、本年には大流行することは十分に予測できたところです。流行はいずれ終息すると予想されますが、それに安堵することなく、来る再流行に備えるため、接種率目標を設定し、ワクチンを確保すると共に一斉接種をすることで風しんの流行および CRS の発生を即刻阻止すべきです。MR ワクチンの接種であれば麻しんの撲滅にもつながります。

チリでは 2005 年 CRS が 3 例発生後、2007 年に 4000 例の風しんが報告されました。この際、チリ政府は 19 歳～29 歳の男性を対象に一斉に予防接種を行い (接種率 92.3%)、翌年以降の流行を阻止しました。またコスタリカでも 1999 年に 15 歳～39 歳を中心に約 1300 例の風しん感染と 30 例の CRS が発生しましたが、2001 年には当該年代に予防接種を行い (接種率 80%以上)、その後の風しんの流行は見られません。我が国においては、既に 10000 件を超える風しんが報告されていることから、他国と同様に一斉にワクチン接種を行う段階にあります。風しんは 6～9 年のサイクルで流行するとされ、万一、風しんの再流行を迎えれば、行政への批判が一層強まることは必至です。

以上のことから、下記の点について要望いたします。

記

1. CRS を根絶させるため、20 代から 40 代のすべての男女が無料で風しんの予防接種を受けられるようにすること。そのために、予防接種法第 6 条第 2 項に基づき、臨時接種を指示すること。
2. 20 代から 40 代のすべての男女が風しんの予防接種をうけるために必要なワクチンを輸入を含め早急に確保し、定期接種と同等の補償を行うこと。
3. 風しんワクチンの接種率を高めるため、集団接種が出来るように都道府県、市町村、事業所に働きかけること。